

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報					平成	29	年度
事業番号	730	事業名	敬老会開催費				
担当課	中央公民館	担当係	—				
総合計画に最も関連ある施策	施策	2	やすらぎと生きがいのあるまちづくり		連絡先	0858-72-3113	
	施策体系	3	生きがいづくりの推進		事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	敬老会					
予算区分	款	9	教育費		事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	4	社会教育費				
	目	2	公民館費		計画期間	開始	—
	事業	730	敬老会開催費			終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 町内に住む75歳以上の高齢者の方				
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 長年にわたり社会に尽くされた高齢者の方に、長寿と健康のお祝いの会を開催				
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 4月の日曜日に、各地域(郡家・船岡・八東)の会場に集まっていただき、敬老会を開催				
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 敬老会の開催案内、出席される方の送迎については、送迎バス等で会場までの送迎を行う。				
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 高齢者の福祉について充実を図り、安心して健康で生きがいのある生活を送ることができる交流の場を提供				
根拠法令等	5	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 ⑤ なし			法令等名→

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし	
	A	人	敬老者数	
	B			
	C			
	D			
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし	
	A	人	敬老会参加者数	
	B			
	C			
	D			

4 コスト

区分		単位	26年度	27年度	28年度		29年度		30年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	3,157	3,163	3,250	3,171	3,181	3,140	3,200
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	人	1,134	1,051	1,230	1,063	1,200	1,057	1,210
	B								
	C								
	D								
トータルコスト		千円	14,895	14,750	15,230	14,801	13,085	12,663	13,085
担当職員数		人	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.80	0.8
職員人件費		千円	8,800	8,800	8,800	8,800	6,400	6,400	6,400
事業費		千円	6,095	5,950	6,430	6,001	6,685	6,263	6,685
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円							
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
一般財源(単町費)		千円	6,095	5,950	6,430	6,001	6,685	6,263	6,685

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 29 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 75歳以上の町内の方を対象に実施した。(郡家地域:4月17日開催、船岡地域・八東地域:4月24日開催) ○郡家地域1会場:対象者1,519名(うち米寿77名)参加者393名 ○船岡地域4会場:対象者 724名(うち米寿38名)参加者316名 ○八東地域1会場:対象者 897名(うち米寿44名)参加者348名 参加者合計1,057名 成果(具体的に) 高齢者福祉の充実を図り、安心して健康で、生きがいのある生活を送ることができる交流の場を提供することができた。
----------------	---

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	13	20	①必要性が高い	敬老会は、高齢者自身が健康と喜びを感じる機会であると同時に、町をあげて実施することにより町民の敬老意識の向上にも繋げることができる事業である。また、高齢者の社会参加へのきっかけとなることも期待できる。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	対象者の把握や3地域で行う事業の効率性を考えると、町が実施主体となる方が良いと考える。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	参加予定者分の二重折を準備しているが、開催日当日に欠席者が出て不用となる場合があるので、削減を検討する必要がある。二重折の量が多く高齢者では食べきれないとの意見があり検討が必要である。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	町内在住高齢者の長寿と健康を祝賀する事業は、高齢者の生きがいづくりには必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	高齢者の長寿を祝うことによって、自身の健康と喜びを感じていただける機会をつくることができた。また、高齢者同士の交流の場ともなっていることから、参加することが楽しみの一つとなり社会参加への意欲の増進を図ることができた。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	65	長年に渡り社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表し、長寿を祝うことで高齢者の生きがいづくりや社会参加へ繋がった。併せて、各集落の推進役に協力をいただいたり、町をあげて実施したことによって、高齢者に対する敬老意識の向上に繋げることができた。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	2	
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	長年に渡り社会や地域に貢献されてきた高齢者の方々に感謝と尊敬の意を表し、長寿を祝うことで高齢者の福祉増進を図るとともに、町民の敬老意識の高揚を図る本事業の意義は高い。本町の高齢化率は32%(H27国勢調査)を超え、全国的にみても高齢化率の高い地域であるとともに、いわゆる「団塊の世代」が今後高齢者となる将来を見据えても、敬老会事業をより有意義なものとする必要があると考える。活動・成果指標から敬老会の参加率を算定すると、H27:33.2%、H28:33.5%、H29:33.7%となっており、H26の35.9%と比較しても参加者数の少なさが課題として挙げられるところである。他の自治体においては、小学校区や集落・自治会単位で実施しているもの、また、老人ホーム等施設単位で実施しているものも見受けられることから、参加者の増加を目標として掲げるのであれば、より充実した事業となるよう地区公民館単位や集落単位での実施、まちづくり委員会との連携・タイアップ等実施の方法について検討を行っていただきたい。また、行事内容についても、ニーズの把握はもちろん先進・優良事例の研究等も進め、参加率向上へ繋がるような手法の検討を進められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 近年、参加者数が減少する傾向にあり、参加者を増やす取組が必要である。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 対象の高齢者が参加したいと思うような事業内容とするため、参加者や協力いただいた方などの意見を参考にしながら参加促進を図っていく。